

パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報 2022年10月1日 229号
世界平和地球村の建設と自然環境の保護



タイヤをパラグアイカラーに塗装。9月6日



過去の青年奉仕隊が修理した、思い出深い旧校舎の前で記念撮影。9月5日



ニュー・ホープ・アメリカ号が隊員輸送に活躍。



その校舎の再塗装が完了。9月7日



当会が建築・寄贈した校舎を再塗装。9月5日

●今回実施した第22回奉仕隊の特徴は、3か国の混成（日本10名、バラグアイ6名、アメリカ3名）となつたことです。国際色豊かで、文総裁夫妻の人類一家の理念を多少なりとも実現できたように思います。青年たちは国籍、言語の違いを越えて、兄弟として一つになろうとする心情が随所に表れています。私たちは、世界中の貧困者たちの事情を共にできる者でなければグローバルリーダーになれないという箇所を読んでいたので、隊員たちには何とかして彼らと同じ事情圏を分かち合いたいとの願いがあふれています。トイレは井戸からバケツに水を汲んできていました。トイレの片隅でバケツで浴びる不便さに耐えました。でも男子たちはむしろ喜んで川に水を浴びに行つていました。自分たちが今まで当たり前に思つていて流さなければならぬし、シャワーは川に行くか、ま歸っていたかを実感したと日々に言つていました。でも住民たちに最も喜ばれたのは児童公園です。遊具は私たちがエスペランサに着く数日前に業者が設置しました。私たちの到着時には多くの子供たちがそれで遊んでいました。当日は日曜日でしたが、それで遊んでも児童公園には子供たちがあふれています。ブランコやシーソー、滑り台など一杯に群がつていました。学校の先生たちもそれを眺めながら、遊具が設置されることが長年の夢だったと言つていました。遊具は子供たちに夢をもたらせるように思ひます。●高校の校舎の窓にカーテンを付けてあげました。校舎の窓が東と西とにあり、朝は東から、午後は西から太陽の光が差し込むのです。電気がなく、クリークも扇風機もなく、灼熱の太陽光をまともに浴びて勉強どころではないとのこと。高校の校長先生に何をしたら助かるかと尋ねると、即座にカーテンがあればとの答が返つてきました。そこで3つの教室の合計21個の窓にカーテンを付けてあげました。これに校長先生は何度も何度もお札を言つていました。最も望まれるものを見ねると、教師用の教科書が欲しいとのことでした。そこで小学校から中学校までの主要な教科の教科書を一冊ずつ揃えてあげました。これを機会に、インディヘナの社会から向学心に燃える子供たちが出てくることを望んでやみません。

レダ編



食品加工工房を訪問、試食。9月1日



全員そろって初めての夕食。8月31日



パラグアイの先発5隊員が到着。8月30日



養殖パクーを掬って別の池へ。9月2日



操縦士のピーター・パウロさん。9月1日



ニュー・ホープ・アメリカ号は120馬力。



船でエスペランサ村に出発。9月4日



マンディオカの挿し木を体験。9月3日



ブタランドを訪問。9月3日



報告祭で、岩澤所長から受けた感謝状を手に記念撮影。大講堂にて、9月9日



釣り体験でピラニアをゲット。9月8日

8月30日 アスンシオン出発
8月31日 奉仕隊全員がレダに到着
9月1日 佐野氏の講話「南米摺理」
9月2日 奉仕隊全員が移動・宿泊
9月3日 パクーの餌やり体験、養殖
9月4日 リアチヨの干潟を散策、養
9月5日 オープニングセッション、食堂
9月6日 島田さんの講話、歌の練習、
9月7日 食堂の壁画完成、校舎塗装
9月8日 洗濯、星を見る（星座の話・宇宙の話）
9月9日 感想文記述、報告祭（証し・
歌・記念撮影）、国際食事会、アキダ
バンで家路に就く隊員たちを見送る。

レダ摺理「青年奉仕隊の意義と歴
史」、レダ基地内見学（公館・食品加工工房・エビ養殖研究所・他）、スペ
イン語の歌の練習、一日の報告（毎晩）
パクーの餌やり体験、養殖池で雑魚の除去、パクーの追い込み、
および別の池への移し替え体験、岩澤所長の講話「日陽園摺理」、ピーター・
パウロさんの証、アキダバン荷役
豚場見学、農場見学、マンディオカ挿
し木体験、穴掘り体験、パブロさん
の講話、歌の練習、奉仕活動の最終準備
9月4日 昼食後に船でエスペランサへ移動
9月5日 エスペランサでの奉仕活動
9月6日 校舎の塗装、食堂の壁画描
き、公園のタイヤ遊具を塗装
9月7日 食堂の壁画完成、校舎塗装
9月8日 洗濯、星を見る（星座の話・宇宙の話）
9月9日 感想文記述、報告祭（証し・
歌・記念撮影）、国際食事会、アキダ
バンで家路に就く隊員たちを見送る。

8月30日 アスンシオン出発
8月31日 奉仕隊全員がレダに到着
9月1日 佐野氏の講話「南米摺理」
9月2日 奉仕隊全員が移動・宿泊
9月3日 パクーの餌やり体験、養殖
9月4日 リアチヨの干潟を散策、養
9月5日 オープニングセッション、食堂
9月6日 島田さんの講話、歌の練習、
9月7日 食堂の壁画完成、校舎塗装
9月8日 洗濯、星を見る（星座の話・宇宙の話）
9月9日 感想文記述、報告祭（証し・
歌・記念撮影）、国際食事会、アキダ
バンで家路に就く隊員たちを見送る。

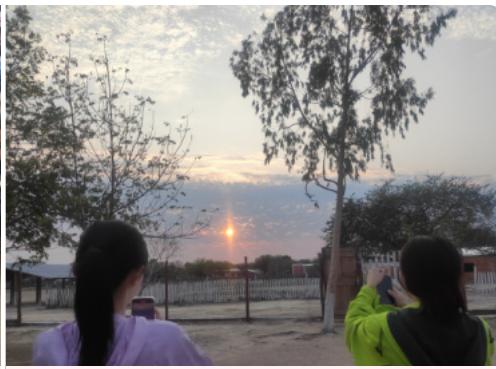
第22回青年奉仕隊活動日程



青年奉仕隊員の自己紹介。9月5日



子供たちに歌を歌ってあげる。9月5日



エスペランサで迎える最初の朝。9月5日



朝の川水は冷たくて気持ちいい。9月6日



子供たちがダンスを披露。9月5日



サッカーとバレーのボールを贈呈。9月5日



子供たちに折り紙を教える。9月6日



ものすごい集中力で壁画を描く。9月6日



古タイヤで作った鳥に色を塗る。9月6日



エスペランサ開村記念式典で。9月7日



仲良くなった子供たちと。9月7日



お別れ前のツーショット。9月7日

●住民の未来を考えたときに、この奉仕隊はあくまでも彼らが主体となつて、彼ら自身が自分たちの村を良くするための奉仕をする活動であり、我々は少しの知恵、技術、経験、教育を提供するだけであり、活動のための材料や人材は彼ら自らが準備するのが良いかも知れないとしました。（男・日本）

●環境問題を考える時、途上国である地域は無視できません。エスペランサを始め多くの人が食料・エネルギー・物を必要としている事を実際に目で見ることがきました。そしてエスペランサの奉仕に携わった事を誇りに思います。エスペランサには良いところがたくさんあります。今までとは別の視点で物事を考えるきっかけになつたことを深く感謝します。（男・日本）

●神様は、今日この地で、私が他の人をもつと信頼し、投入して、兄弟姉妹との時間を最大限に活用すべきだと、して私の心と私の周りの人々の心に何が残るかが、神様にとつてより大切なことだからです。（女・バラグアイ）

●今回、日本とアメリカとバラグアイの3カ国から隊員が揃い、韓国のがんばりもいたので4か国語をこの期間たくさん耳にしました。言葉だけでみるとわからぬこともありますたが、なぜか違和感がなく、その人の表情や心情が自然と伝わって、まるで直接会話をしているようでした。お互いに言葉を教えあつたり、覚えた言葉を実際に使つたり、そうやつてお互いに歩みよれて、本当に兄弟姉妹のような関係をもつたことが嬉しいです。（女・日本）（以下、四面に続く）

●持続可能な福地建設をめざしては休ませていただきます。

